



「ピッコラーレ」とは

ピコ(「おへそ」「中心・核」を意味するハワイ語)とココラーレ(「寄り添う」を意味するイタリア語)を組み合わせた造語です。相談窓口や相談支援員が、たった一人で漂流しなければならなかった相談者にとって安心でほっとできる潮溜まりのような居場所でありたいという想いを込めています。

団体概要

団体名称

認定NPO法人 ピッコラーレ

団体ヒストリー

- 2015年 9月 助産師6名、社会福祉士1名で任意団体として「にんしんSOS東京」を発足
- 2015年12月 妊娠葛藤相談窓口「にんしんSOS東京」を開始
- 2016年 3月 一般社団法人にんしんSOS東京を設立
- 2018年11月 特定非営利活動法人ピッコラーレ設立
- 2019年 4月 全ての事業を一般社団法人にんしんSOS東京からピッコラーレに移管
- 2020年 6月 妊婦のための居場所づくりprojectHOME第1号「びさら」受け入れ開始
- 2022年12月 認定NPO法人を取得

# Piccolare Annual Report 2024

認定NPO法人ピッコラーレ 2024年度活動報告書

発行 2025年9月

認定NPO法人 ピッコラーレ

〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-10-24深野ビル2F

☎ 050-3134-4479 

✉ info@piccolare.org

🌐 https://piccolare.org

project HOME 

🌐 https://home.piccolare.org/

Facebook X

メルマガ note

Instagram

絵・相野谷 由起



認定NPO法人

# ピッコラーレ

# Piccolare Annual Report 2024

認定NPO法人ピッコラーレ  
2024年度活動報告書

## 代表あいさつ

いつもピッコラーレの活動に心を寄せてくださり、本当にありがとうございます。  
皆さまのお力添えのおかげで、2024年度も365日休むことなく窓口を開き続けることができました。心から感謝申し上げます。

にんしんSOS東京は2025年12月に10周年を迎えます。

振り返ると、2015年に「にんしんSOS東京」を立ち上げた頃、妊娠葛藤相談窓口は全国でわずか4ヶ所ほど。  
まだチャットもなく、ほとんどが電話相談のみの窓口でした。

そんな中、私たちは0日・0か月児の虐待死に繋がる妊娠をなくすには、具体的な支援に繋げることが大切だと考え、  
今日までずっと面談や同行を続けてきました。

窓口立ち上げから10年——

今や妊娠に関する相談窓口は全国に70ヶ所以上設立されています。

また妊娠に限らず今や様々な相談窓口が社会実装され、ChatGPTなどのAIに相談する若者たちも出てきています。

それでも、面談や同行は人でなければできません。

何度もやりとりをしていたとしても、チャットや電話では想像もしていなかった状況の深刻さが、  
実際にお会いして初めてわかることもあります。

「0日・0か月児の虐待死にいたる妊娠をなくす」ことを目的として始めた「にんしんSOS東京」で見えてきたのは、  
出会った方のほとんどが妊娠するもっと手前から様々な困難を抱えていて、そしてその困難のほとんどは、  
私たちの社会の仕組みによって生じているという社会課題です。

相談だけで絡まり合った複数の困難を一気に解きほぐすことはかなり難しい中、  
居場所での継続的な暮らしの支援のニーズも生まれてきました。

ネットカフェでその日暮らしをしている妊婦との出会いをきっかけに、「ないなら作ろう」と始めた、妊娠期の暮らしを支える  
「びさら」は令和6年度の改正児童福祉法により「妊産婦等生活援助事業」として法定化されました。  
しかしまだまだ利用問い合わせの数に対し、居場所の数は圧倒的に足りていません。

「びさら」はその境界線を曖昧にし、地域やコミュニティの他者を受け入れたり、その外側へ出かけていくことができます。  
そんなふうになんと互いに顔が見える関係になり、声をかけあうようになり、その人にとっての「HOME」と思える  
居場所が生まれます。

私たちが大切にしたいのは、「HOME」であること。

そして「びさら」卒業後の暮らしの中でも、「HOME」を見つけられること。

数ヶ月ぶりに会った若者が、「私、無敵じゃなくなったよ。」と教えてくれました。

今のアルバイト先にいる仲間たちのことが大好きで、そのアルバイトをずっと続けたいと願っている自分がある、だから、  
「いつでも死んでいい、消えたいと思っていた自分ではなくなった。」と。

自分にとって大切な他者の存在があることもその場所が「HOME」になることを支えてくれます。

「にんしんSOS東京」や「びさら」は「妊娠をきっかけに誰もが孤立することがない」というビジョンの実現に寄与しました。

さあ、ここからはいよいよ「自由に幸せに生きていくことができる社会」の実現に挑戦していきます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。

心からの感謝を込めて。

認定NPO法人ピッコラーレ

代表理事

中島 かおり



## ピッコラーレが取り組む4つの事業

妊娠葛藤相談窓口に寄せられる声を聞くことによって見えてきた課題解決へ向けて、相談支援事業のほか3つの事業を展開。

|                           |   |   |   |   |   |                    |
|---------------------------|---|---|---|---|---|--------------------|
| <b>1</b><br><b>相談支援事業</b> | <b>3つの妊娠葛藤相談窓口と中絶後の相談窓口を運営</b>  |   |   |   | <b>電話</b>                                       | <b>365日<br/>開設</b> |
|                           |  |  |  |  | 16-23時  |                    |
|                           | にんしんSOS東京<br>2015年12月より<br>自主事業として開設  | PUPU(プープー)<br>2020年2月より<br>中絶後相談窓口  | 2018年7月<br>埼玉県より受託  | 2019年1月<br>千葉県より受託  | メール   |                    |
|                           |   |   |   |   | 24時間<br>チャット相談<br>びこトーク<br>にんしんSOS東京<br>週3日/2時間 |                    |

**2**  
**居場所事業**

居所なし若年妊婦等への  
安心・安全な居場所づくり事業  
包括的性教育の普及

**3**  
**研修・啓発**

妊娠葛藤相談窓口の普及  
妊娠葛藤相談支援員のスキルアップ

**4**  
**調査研究・政策提言**

妊娠葛藤を社会課題として  
可視化するために、  
白書作成・政策提言・要望書の提出など

対談

# 命を預かる現場を社会で支える

—— 妊産婦等生活援助事業

認定NPO法人ピッコラーレ 代表理事 中島かおり

NPO法人PIECES 代表理事 齋 典道

2023年度、改正児童福祉法で「妊産婦等生活援助事業」が法定化され、翌年度に東京都も事業化。ピッコラーレが運営する居所のない妊産婦のための居場所「びさら」も選定され、初めて公的補助金を活用して運営できるようになりました。この制度化は、ピッコラーレだけでなく、NPO法人PIECESとの協働や全国で妊産婦の居場所運営をしている仲間と一緒に現場の声を社会に届けてきたからこそ。現場の声を社会につなぐ道のりや、これからの挑戦について、NPO法人PIECESの代表齋さんとピッコラーレ代表の中島かおりが語り合いました。

## 妊産婦の居場所法定化の社会的意味

**中島** 「ないならつくろう」の想いで「びさら」を開設してから4年たった2024年度、東京都が「妊産婦等生活援助事業」を事業化し、ピッコラーレも事業者を選定されました。これまで「びさら」は助成金や寄付金で運営を続けてきていたので、毎年綱渡りのような状態でした。妊産婦や彼らの子どもの命を預かる居場所であるからこそ、このような活動は公的資金のもとで安定的に運営されるべきだと、現場の声を社会に発信し続けてきました。その声をしっかり受け取ってくれた制度作りの現場の人たちがいて、妊婦の居場所が改正児童福祉法で法定化され、さらに東京都でも事業化されました。昨年度の途中から、「びさら」にも公的補助金が入るようになったんです。

**齋** 制度化は本当に大きな転換点でしたね。社会が困難を抱えている妊婦の存在や彼らのための居場所の必要性を認めてくれたと感じることができましたよね。

**中島** そうなんです。「居場所を続けられる」という安心感はもちろん、「社会に認められた」という実感を持つことができました。「びさら」は妊産婦や彼らの子どもの命・生活・暮らしを包括的に支えるための場。そこに公的資金がついたことは、私たちにとても、利用する妊産婦や彼らの子どもたちにとっても、とても大きな意味があります。

**齋** 安心して生活できる場があるからこそ未来のことも考えられるという意味でも、「妊産婦等生活援助事業」の法定化によって、妊娠期から生活の根幹となる居住や暮らしを支える仕組みが生まれたのは大きいですね。支援者にとっては、公的支援として事業が作られていることで「社会で支えていく」を実感できるのではないかと思います。

## 多様な関係者とのソーシャルアクションの成果

**中島** 「妊産婦等生活援助事業」の法定化は、妊婦の孤立をなくし、0か月0日死亡をなくすという社会の目標に向けて、さまざまな立場の人たちがともに動いたからこそその成果ではないかと思っています。

**齋** 本当にそうですね。「びさら」を開始した初期の段階から厚生労働省の担当の方々が「びさら」に足を運んでくれて現場や利用者の声をじっくり聞いてくれたという話をされてきましたよね。

**中島** そうなの、何度も足を運んでくださいました。すでに居所のない妊婦と出会って「びさら」に利用の問い合わせをしてくれた自治体の担当者たちの存在も大きかった。同時期に、厚労省の関連委員会で委員として「びさら」のお話をさせてもらう機会を得ていたため、他の施策で何とかやりくりしてきた自治体の支援の現場も、「びさら」のような場所を必要としている実情を伝えることができました。そして、なんといってもPIECESがこれまでずっと一緒に歩いてきてくれていることはとっても大きい。支援現場がある中で、全国で妊産婦の居場所/生活支援をしている団体と繋がって定期的に勉強会を実施したり学会で発表したり、「妊産婦等生活援助事業」の開始にあたって全国の仲間と一緒に「妊娠期の居場所づくりシンポジウム」を開催できたのも、それらの事務局をになってくれたPIECESの存在があってこそでした。このような現場の声を多様な形で社会に届ける活動を継続的に行うことは、現場を制度に繋げる上で欠かせないことだったと改めて思います。

**齋** それぞれの得意分野を活かしながらやってきている感じですよ。お互いのリスペクトが長年の協働を支えて来ているとも思っています。

## これからの挑戦：「社会のまなざし」の変容

**中島** PIECESとしては、「びさら」やこの制度化のプロセスを通して、現場と社会をつなぐ意味をどんなふう感じているかな？

**齋** そうですね。「びさら」を始めたときから目の前の利用者の支援というミクロの実践を通して、これは局所的な課題ではなく社会全体に横たわっている課題であることが見えていました。課題を社会のみんなの共通認識に変えていくために国に対して働きかけ、法定事業という形で「びさら」のような取り組みを全国で実践できる下地をつくっていく。そういった「ミクロとマクロ」「現場と社会をつなぐ」という意味がありますよね。一方でこれからは、現場の実践(ミクロ)や制度化(マクロ)とは少し異なる、市民社会の理解や気づきや、このような取り組みを自分たちの話として捉えられる社会をどう作っていくのか、という課題があると思っています。

例えば学校の先生も、当事者となるような人たちもこの制度や事業を知っている、そんな日はまだ遠い先の話かもしれない。でも、困った時、自分たちの選択の1つとしてこういう居場所を選べるんだと言うことを、本当はみんなでもっと理解したいし、スティグマなくこのような居場所の情報を広げていきたい。この課題と少し距離のある人たちや直接的に日々関係がないかもしれない人たちも社会という一つの繋がりの中で理解をどうもたらしていくのが、今後のチャレンジだと思っています。



ピッコラーレ 代表理事 中島かおり

**中島** 本当だね。最初から「変わる主体は自分たちでもある」という視点を持って取り組んできたけれど、私たちの取り組んでいる課題は制度や支援者だけでは解決できない。「社会のまなざし」「市民としての関わり」のあり方に目を向けて活動することがこれから本当に大事になってくるよね。

**齋** まさにここから「project HOME」を地で実践をしていけるといいと思っています。誰かを安心して頼れる感覚や、自分がここにも大丈夫というその感覚の積み重ねが、本当に何か困ったことがあった時に自分だけで何とかしようでもなくちょっと頼ってみようかなと思えるのではないかな。妊産婦/特定妊婦に関する課題を解決していこうというエネルギーを働かせるのと並行して、地域と一緒に暮らしている人たちに、課題から入るのではなく、もう少しみんなが気になっていることから一緒に始めていくように、その中で妊産婦の人たちの存在だったり、彼らの困りごとだったりも伝わっていくといいなと思っています。

**中島** HOMEを考える時には人の存在が必ずありますね。未婚の若年母子の居場所「マハロ」の活動は地域の皆さんともつながれる活動だと思っていますが、ピッコラーレの活動として繋がる手前に、ひとりの人と人として出会う、つながる大切さがあるんだということも学んでいます。

地域の人たちとともにある中で、利用者が支援をされる側から地域の担い手になっていく、そんな未来までを考えられるようなところに「project HOME」も来ているって思っています。

## NPO法人 PIECES

子ども・若者の「心の孤立」を防ぐために、領域やセクターの壁を越えたコラボレーションを通じて、子どもとその環境を織りなす人との「間(ま)」を豊かにするための市民支援者育成事業等に取り組む。

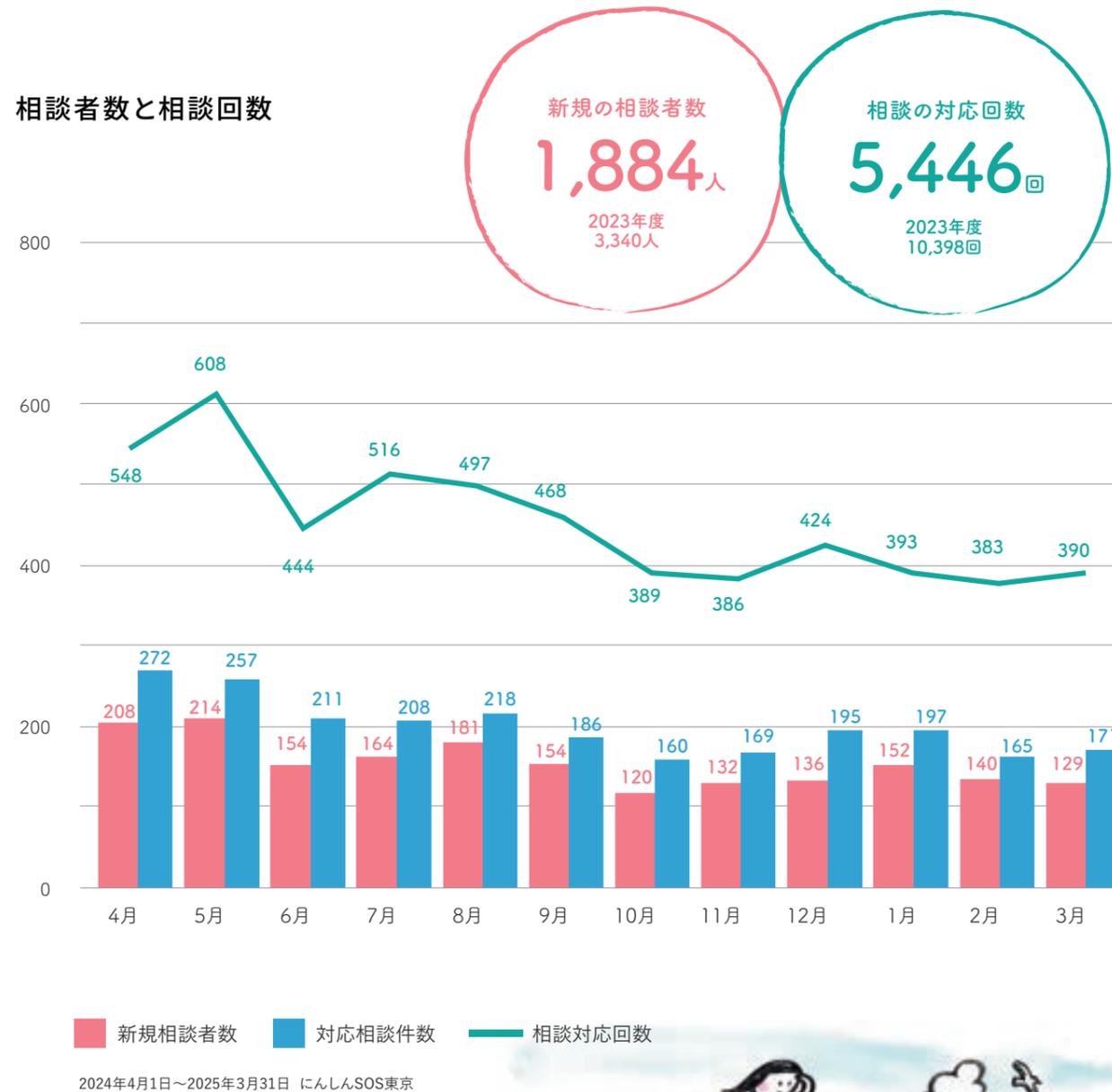


PIECES 代表理事 齋 典道さん

# 1-1 相談支援事業

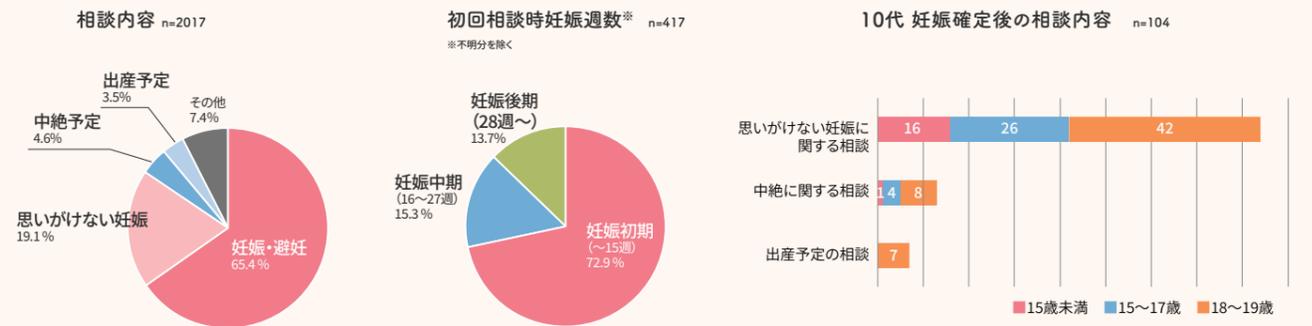
2024年度は、大規模な広告を出した昨年度に比べて、相談者数、相談対応回数ともに減少したものの、1か月あたりの平均相談対応回数は450回を超えました。また、陣痛で苦しむ未受診妊婦本人に代わって救急要請をし、なんとか病院での出産につながったケースなど、母子ともに命の危険に直結する状況下に置かれた方からの相談もありました。

## 相談者数と相談回数



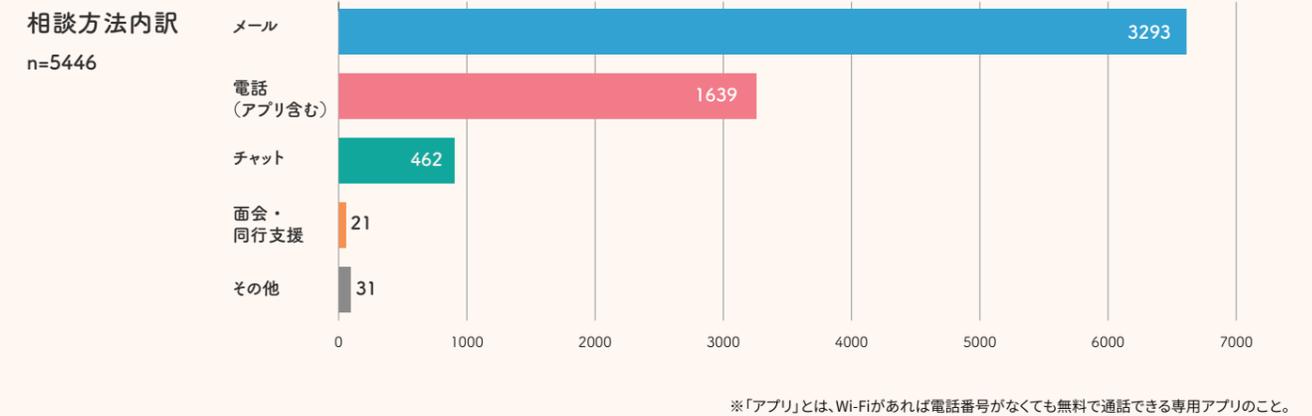
## 相談内容

2024年度妊娠確定前の相談が65%、妊娠確定後の相談が28%でした。妊娠確定後の相談に注目すると、妊娠初期の相談が72%を占め最多となりました。一方、妊娠後期の相談は13%。「正産期」と言われる妊娠37週以降の方からの相談が3件ありました。また、10代の妊娠確定後の相談は104件で、そのうち中絶可能時期の21週までの相談が41件とおよそ4割を占めました。



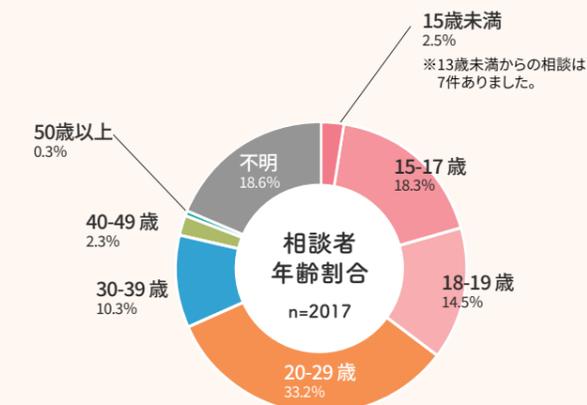
## 相談方法内訳

2024年度も、メールの相談が全体のなかで最も多く6割を占めました。アプリ電話の利用は増加傾向にあり(一昨年度比88件増)、電話番号での通話が「できない」「通話料を気にせず通話したい」状況など、相談者の方がおかれている多様な状況が伺えます。電話・アプリの相談1639件のうち、アプリでの相談は433件でした。



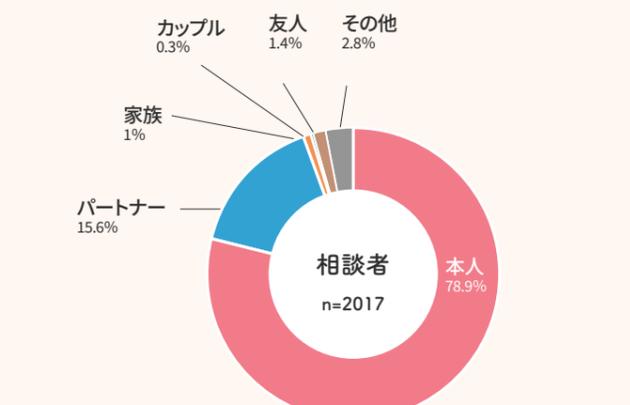
## 相談者年齢割合

2024年度も、10代・20代の若年者からの相談が約7割を占めました。



## 男性からの相談

男性からの相談は16%ありました。男性の相談も10代・20代の若年者からの相談がおおよそ7割を占めています。相談内容は、パートナーの妊娠を心配しているなど「妊娠・避妊に関する相談」が8割を占めています。



# チャット相談

## 「ぴこトーク」



窓口を開設した当初から、特に10代の若年者はメール(テキスト)での相談割合が大きい傾向が続いていました。一方で、日常的にメールを使っている若年者は多くなく、実際に、しばらくやり取りが途絶えてしまっていた相談者の方から「メールを見ていなかった」と言われたこともあります。また、長いメールを読んだり書いたりすること自体が、相談者の方の負担になっているのではないかと考え、より相談しやすい手段として、2023年10月からチャット相談「ぴこトーク」を導入しました。2024年度も、週3回、それぞれ2時間ずつ開設しました。

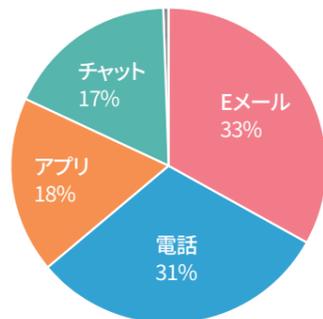
**夜8時から10時まで  
チャット相談を受付中です。**

**ログイン方法は2種類**

1. LINE IDを使ったログイン
2. 完全匿名での相談

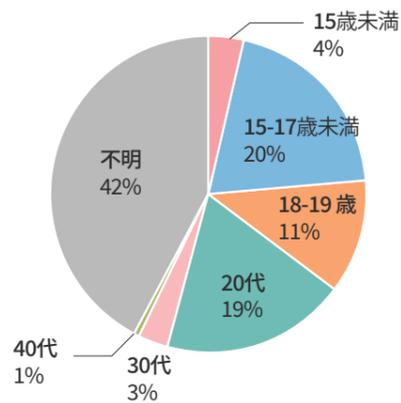
- 年齢・性別に関係なく、ご利用いただけます。
- メアド/電話番号、住所などは知らせずに相談できます。
- 相談料はかかりません

相談者の初回相談手段 (n=2017)



チャット相談は、他の相談手段に比べると限られた時間での開設であるものの、初回相談手段の17%を占めました。「ぴこトーク」は、限られた時間内に短文で相談者の方とやり取りをするため、私たちに伝わる情報は他の相談手段以上に限られます。そのため、年齢や性別が分からないままのことも多いのが現状です。ただし、緊急性がある相談など、必要に応じて、電話等の他の手段と組み合わせて対応することもあります。

「ぴこトーク」利用相談者の年齢割合 (n=340)



初回相談で「ぴこトーク」を利用した相談者340人のなかで、年齢のわかっている相談者は187人でした。そのうち、10代が120人を占め、そのうち15歳未満の利用は12人でした。10代・20代の若年者が9割以上を占め、若年層にとってハードルの低い相談手段であることがうかがえます。

# 1-2 相談支援事業 面談・同行支援



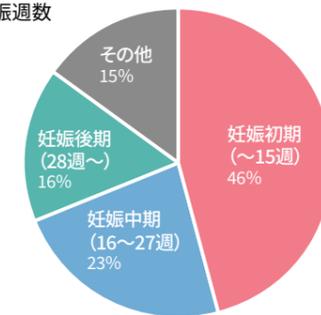
ピッコラーレでは、「面談・同行支援」を行っています。2024年度は18歳から34歳まで、13人の面談・同行を実施しました。

面談・同行支援では、病院や行政機関に相談者の方をつなぐだけでなく、ご本人から、妊娠や現在の生活に対する気持ち・今後の希望などをよく聞き、一緒に考えることを大切にしています。これは、私たちが会える相談者が、それまで、自分自身で選択することができない環境に暮らしていた方が多いからです。相談者の方自身が限られた時間・選択肢の中でも最大限に悩み、自分で選ぶことを支えることは、その後の人生において「選択肢があるんだ」「選んでいいんだ」と思えることにつながると考えています。

### 同行ケース 相談時の妊娠週数

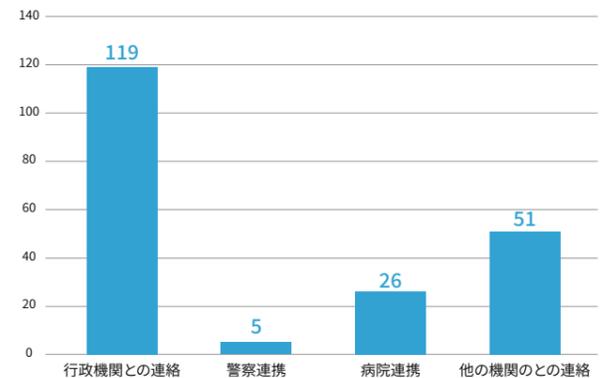
2024年度は妊娠初期での相談が46%でした。2023年度同様、居所が不安定な妊婦がほとんどでしたが、すでに行政機関や他の民間団体に支援を求めた経験を持つ方もいらっしゃいました。また、妊娠ではなく、性感染症や避妊の相談のために受診に同行したケースもありました。

相談時の妊娠週数 n=13



実人数 13人 (同行総件数 18件 + 面談のみ 3件)  
本人とのやりとり総回数 174回(最多34回)

関係機関(行政・病院・警察・民間団体)とのやりとり総回数 201回※  
※情報提供のみのケース等も含む



## 医療の視点から包括的に女性を支える「フェムシップドクターズ」

ピッコラーレはこれまで、妊娠して病院に行ったとしても「怒られるのではないか」「どんな反応をされるのだろうか」「そもそも受け入れてもらえないのではないか」と不安を抱える相談者さんにたくさん出会ってきました。ただ、どれだけ不安があったとしても、妊娠している状況では、医療の支援は不可欠です。私たちは、その不安が少しでも和らぐように、相談者の方とのやり取りを重ねながら、少しでも安心して受診できるよう医療機関と連携し、受診に同行するなどの支援をおこなっています。

そのような中で、一般財団法人日本女性財団の「フェムシップドクターズ」は、相談者の方を「よく来てくださいましたね」と温かく迎え入れてくださる心強い存在です。いま、そこにある相談者さんの医療的な困りに丁寧に対応するだけでなく、その方の生活から生じるリスクや、その先の健康についても相談できる、私たちにとっても安心できる強力な味方です。

### 「日本女性財団」と「フェムシップドクターズ」

#### 日本女性財団

「女性の生涯の心身と社会的なウェルビーイングを支援する」をテーマに、女性医療を軸に、医療・福祉・行政・政治・経済と連携しながら活動している団体。ピッコラーレは連携団体として登録されています。



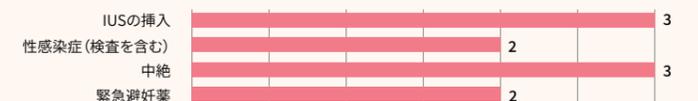
#### フェムシップドクターズ

日本女性財団が認定した、女性が生涯を通じて健康で生きやすい社会をつくるために活動する医療従事者たちの総称です。ピッコラーレでは特に、未成年等ハイリスクな状況下で妊娠の不安を抱える相談者の方や、居所や経済的に不安定な妊婦の支援において連携が多くあります。



### 2024年度 フェムシップドクターズ連携件数 10件

連携内容 (n=10)





## 中絶後の相談窓口

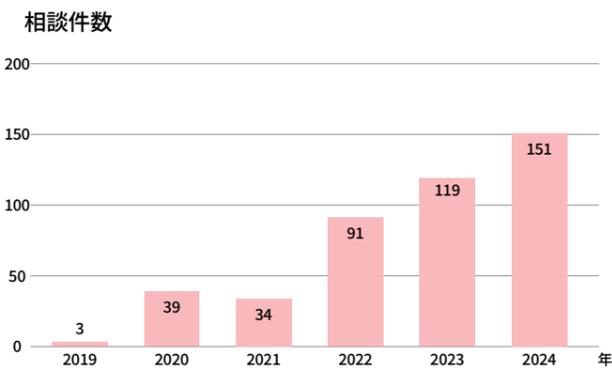
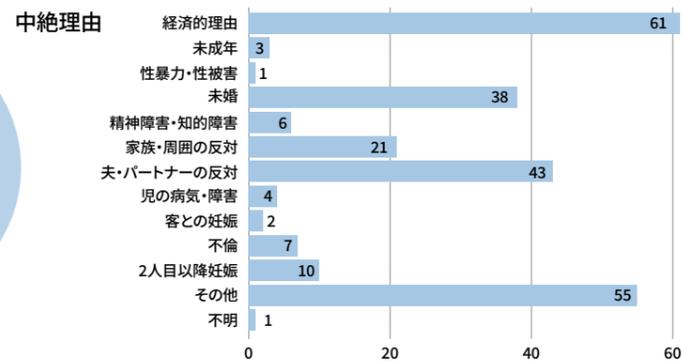
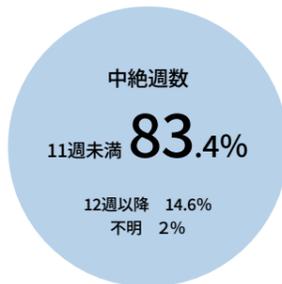
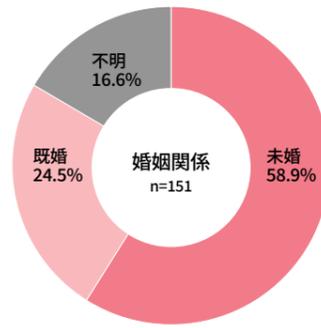
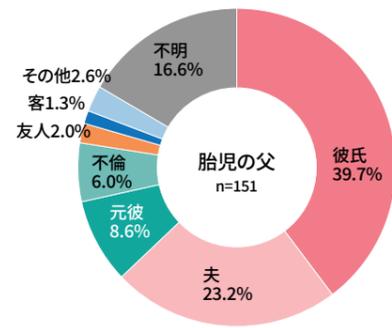
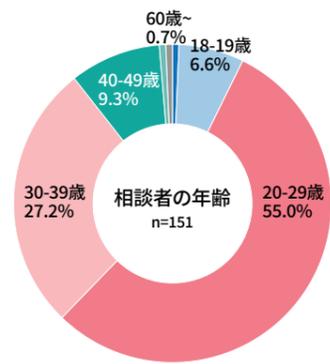
# PUPU プー プー



### PUPUは2024年度5周年を迎えました!

PUPUはハワイ語で2枚貝を意味する言葉です。相談者さんを優しく包む2枚貝のようでありたいと、中絶後の窓口として活動を始めました。1週間に1度。文通のようにゆっくりとしたペースで相談をメールでお受けしています。相談員は月に1度のミーティングと年に1度の勉強会を行い、中絶後の相談を深めていけるように努めています。

2024年度 相談者数は151人。対応回数は、550回。一人あたりの平均対応回数は3.6回。  
相談者の性別割合は、女性が96%男性は2.6%でした。また、未婚の方が58.9%既婚の方は24.5%でした。



**PUPU 5周年**  
延べ相談者数は421名。延べ対応回数は1622件にも及びます。一人あたりの対応回数の平均は3.9回ですが、この内5ケースは30回以上もメールのやりとりを重ねました。中絶回数は初回が88%2回目以降の方は12%でした。  
また、中絶時期は11週未満が82.1%12週以降は15.3%でした。相談者の方の割合は、女性は96.9%と多数です。中絶から相談に至るまでの期間としては、1ヶ月以内が57%ですが、1~5年が10.8%、5~10年が2.4%、10年以上が2.1%。30年以上前の中絶について相談してくださった方もいらっしゃいました。

中絶した人生がイヤ、価値がないと思ってしまう

子どもを見るのが辛い

こんなわたしが幸せになっただけじゃない

わたしは人殺しになった

死にたい 赤ちゃんのところにいききたい

忘れることなんてできるはずがない

なかったことにはならないし、なかったことにはしたくない



### 相談者の言葉から見えるもの

辛い経験を1人で背負いながら、幸せにはなれない、なっただけじゃないと  
自分を責め続ける相談者の姿が「言葉」から浮かび上がります。

中絶について、記憶から消し去りたいけれど、無かったことにしたくない。そんな気持ちも伝わります。

中絶 = 悪いこと、誰にも言えないこと

そうさせている背景や社会には何があるのだろうか?

ひとりひとりの選択を理解し尊重できる社会とはどのような社会だろうか。

その根本の意味を深く知る必要があると日々感じています。

# 2-1 若年妊婦の居場所 「ぴさら」



「ないならつくろう」から始まった「ぴさら」～2024年6月5年目を迎えました～

「にしんSOS東京」につながってくれた相談者とともに、安心して妊娠期を過ごせる場所を探して行政の窓口に行っても「あなたが使える支援はない」と言われたことが過去には何度もありました。それは当時、居場所も含め、様々な困難を抱えた「若年妊婦」の存在を想定した制度がほとんどなかったためでした。「ないならつくろう」そうして始まった「ぴさら」。多くの皆さまにお力添えをいただき、ここまで一度もそのあゆみをとめることなく運営を継続することができ、24年度は100%の稼働率\*となりました。また、日本全国で妊婦の居場所を運営する仲間と共に、現場の声を社会に届ける活動を重ねてきた結果、令和6年「妊産婦等生活援助事業」が改正児童福祉法で法定化されました。このことにより、困難を抱える妊婦が安心して妊娠期を過ごせる居場所が全国に広がっていくことが期待されます。



●「ぴさら」は妊娠の週数によらず利用を開始することができますが、24年度は中期以降での利用となりました。

●「ぴさら」利用者の連携機関は、医療機関、福祉事務所、保健センター、生活福祉課、子ども家庭支援センター、児童相談所、民間支援団体、弁護士、母子生活支援施設など、多岐にわたります。これら他機関との連携において「ぴさら」では、利用者の権利擁護を念頭にいたソーシャルワークを行うことを大事にしています。

※1 利用者の中には、出産～産後を「ぴさら」で暮らした後、生まれてきた赤ちゃんと一緒にパートナーとアパートなどで生活をする方もいます。その場合はアパートでの3人暮らしを始める前に、パートナーも「ぴさら」に数日宿泊し、スタッフの見守りの中で実際に新生児のお世話や家事など、赤ちゃんがいる生活を体験してもらうこともありました。また、産後もない母の緊急受け入れも対応しました。

※2 平均利用日数は引き続き、長期化する傾向があります。産後の身体の回復や赤ちゃんとの生活に慣れるまでにこれまで以上に時間が必要な場合もありました。母子生活支援施設への拒否感が強い、あるいはアパートの契約に時間がかかるなど「ぴさら」の次の行き先が中々決まらないなどの理由で利用が延長されることもありました。

※3 稼働率＝「ぴさら」で妊婦を1人以上受け入れていた率

※4 例年同様に広域での利用が多い傾向がありました。

## 「日本子ども虐待防止学会 第30回学術集会 かがわ大会」にて企画・発表しました！

公募シンポジウム「多様な困難を抱える妊産婦の生活を支える実践について考える一妊産婦等生活援助事業の今後の発展に向けて」

「妊娠期の居場所づくりについて考える」共同勉強会の仲間とともに企画・発表したシンポジウムでは、運営母体の特徴や地域性の異なる3団体から報告し、困難を抱える方々の生活や暮らしを妊娠期から長期に渡って支えていくことについて、日々の実践を通して捉えるマイクロ～マクロな視点での現状の到達点や課題を報告・議論を行いました。



- 企画者: 中島かおり(認定NPO法人ピッコラレー)
- 共同企画者: 齋典道(NPO法人PIECES)
- 発表者: 永原郁子(公益社団法人小さないのちのドア)  
佐藤初美(認定NPO法人10代・20代の妊婦SOS新宿ーキッズ&ファミリー)  
廣瀬みどり(社会福祉法人大念仏社会事業団 大阪市産産後母子支援事業ダイヤモンドルーム)
- 助言者: 鈴木秀洋(日本大学危機管理学部)

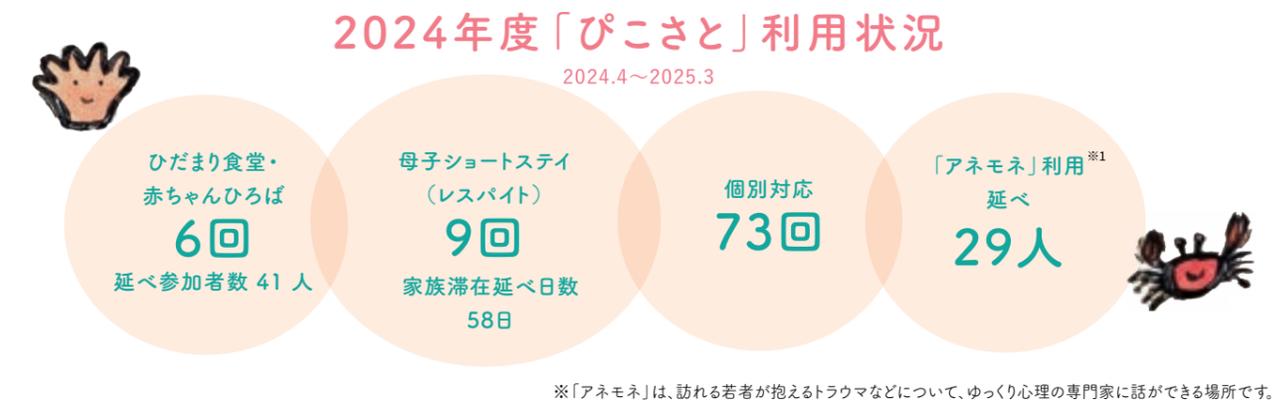


# 2-2 若年妊婦の居場所 「ぴこさと」

「ぴさら」「ぴこさと」の活動拠点は「豊島区地域貢献型空き家活用事業」を活用し運営を行っています。

いつでも戻ってこれる場所を目指して — アフターケア「ぴこさと」

「ぴさら」卒業生がいつでも戻って来れる場所として、2023年度より本格的に開始したアフターケア「ぴこさと」。卒業生であれば誰でも参加ができる「ひだまり食堂」や「赤ちゃんひろば」の開催、母子ショートステイ受け入れ、個別対応としてお食い初めや成人式のお祝いも行いました。また、引越しの手伝いなど、必要に応じて彼らの住まいへ出向いて支援したり、母子での水族館や動物園といったアクティビティ同行などアウトリーチも行っています。今後は卒業生が「ぴこさと」を通して、また新たな信頼できる誰かと繋がっていく、そんな間接的な支援も広げていきたいと思っています。



2024年 5月 12日

## ☆クッキーを作りながら参加者同士で交流する「ぴこクッキー会」を開催☆

ぴさら卒業生、その子どもたち、ピコサボさん(寄付のマンスリーサポーター)、スタッフなど約30名が「ぴさら」に集まり、クッキー会を開催しました！当日は「はじめまして」の方ばかりでしたが、子どもたちがピコサボさんと「ぴさら」卒業生たちを自然とつないでくれて、あたたかくて安心できる空間になりました。現場のスタッフからも「卒業生も、子どもがクッキーをつくる姿を見て成長を感じ、子育ての自信を感じてくれたようです。」との感想がありました！「ぴさら」卒業生やその子どもたち、ピコサボさん、皆さんにとってもよい時間になりました。



## 2025年度 新たな居場所での活動がスタートします！ ～地域で暮らす未婚の若年母子たちが集い、語りあえる場所「マハロ」～

「マハロ」は、「ぴさら」を卒業した方たちだけでなく、地域で暮らす未婚の若年母子たちが安心して集い、語り合える居場所。また、地域の皆さんと一緒に過ごすことができ、そして、彼らが自分たちでその居場所を育てていくことができる、そんな居場所が東池袋でスタートします！活動の場となる物件は、豊島区の若者居場所事業(区がUR都市機構の所有する防災まちづくり用地及び建物を無償貸借し、それを若者支援団体に無償で転貸借をし運営してもらい、若者の居場所を創出する事業)にピッコラレーも事業者として選定され、豊島区より無償で転貸借され運営を行います。今後の活動にぜひご注目ください。



3/21「豊島区若者の居場所創出の促進に関する協定」の締結式に出席しました！

マハロはハワイ語で「ありがとう」という意味。若年未婚の母子がその人としてそこにいてくれることへの感謝と尊敬を込めています。この場所に集うすべての人が、存在そのものを肯定されるようなあたたかい居場所でありたいと願い名付けました。



ピッコラーレでは、2021年1月から出張保健室事業を始めて4年目となりました。

**Action その1** 中高生の居場所  
対象: 中高生

学校や家庭では、子どもたちが性に関することを「学びたい」「知りたい」と思っても聞ける場がなかったり、学校でも話せないこと、学校に行っていない不登校の子どもたちの存在もあります。子どもたちが集まる居場所で、何気ないおしゃべりをする中から、からだやことや性に関すること、人との関係、生活、将来のことなど、何でも話せる地域の保健室のような場所を開いています。

**Action その2** 社会的養護出身の若者の居場所  
対象: 18歳～30歳くらい

アフターケアの居場所では、家庭のこと、仕事のことや生活のことなど、居場所のスタッフに話ができますが、性的ことやからだのこと、時には、妊娠や出産についての相談もあり、ピッコラーレの関わりが必要になることもあります。

**Action その3** 子ども食堂  
対象: 小学生～24歳

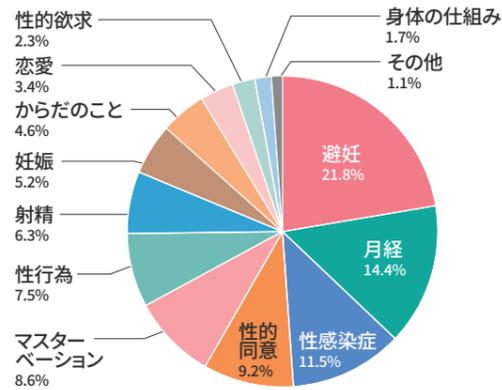
週末、夕飯作りを手伝ったりしながら、スタッフのように子どもたちに関わり、生活のことや将来のこと、趣味のことや恋愛について、話を聞かせてもらっています。

出張保健室「ピコタイム」

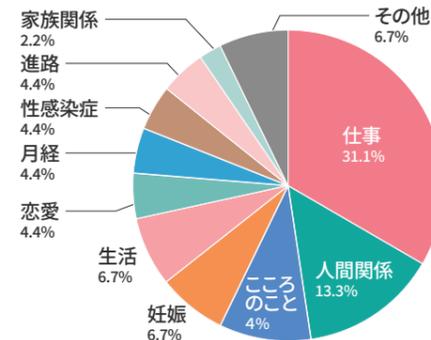
2024.4-2025.3

実施 36回  
利用者数 延べ 141人

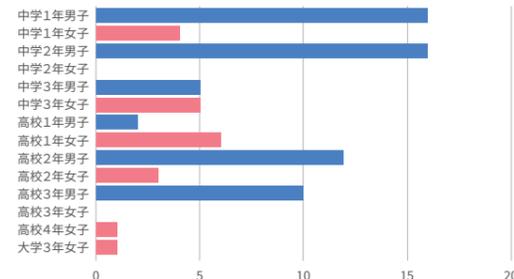
● 中高生の居場所における相談内容(延べ81人)



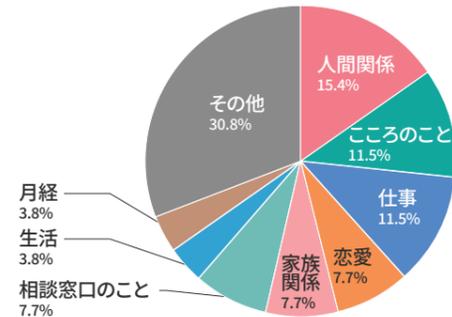
● 若者の居場所で話した内容(延べ37人)



● 中高生の居場所における参加状況(延べ81人)



● 子ども食堂で話した内容(延べ25人)



中学生男子は性に対して関心が高いですが、恥ずかしさもあってか、グループで聞きに来ることが多いです。高校生になると、落ち着いて1人や数名で話ができるようになります。女子は意外と、身近な月経のことでも、友達ともあまり話ができなかったり、知識の少なさを感じます。性的な興味関心についても個人差が大きいです。

豊島区  
受託事業

ぴこカフェは4年目を迎え、リピーターも毎回7~8割を占めており、居場所としても、定着している事業となってきました。10代、20代までとしている居場所が多い中、30代の方でも利用ができ、妊娠中や出産後も訪れる人が見られています。にんしんSOS相談窓口で電話やメール・チャットなどで話をするだけでは心配な方を、ぴこカフェに繋ぐこともあります。

※豊島区からの事業受託は2024年度をもって終了となります。

ぴこカフェ

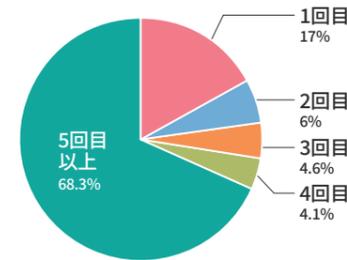
2024.4-2025.3

実施 24回

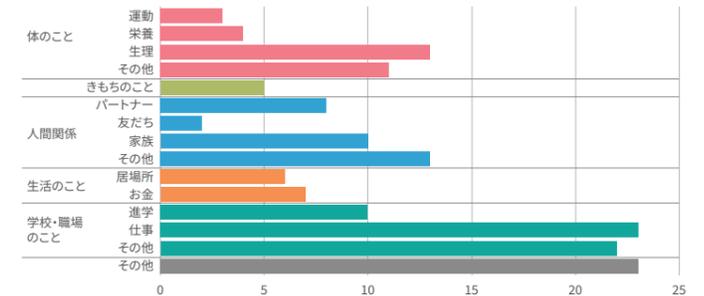
新規利用 37人

+ 継続利用 延べ 181人

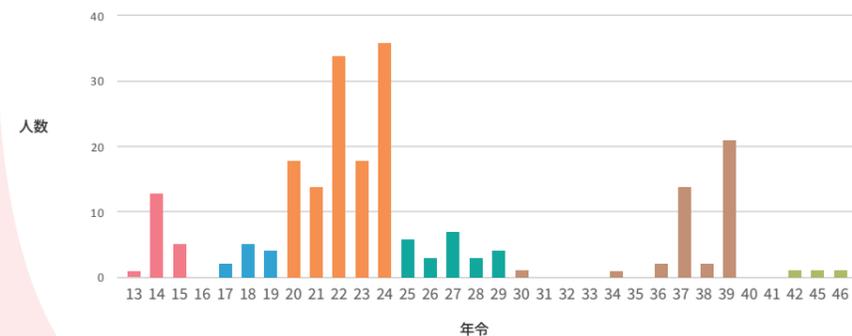
● 利用回数(複数回答あり)



● 相談内容(延べ回数)



● 利用者の年齢と延べ人数



相談はなくても、来られるときには気軽に立ち寄り、軽食を食べて、おしゃべりをしたり、ネイルをしていく方。話を聞いてもらいたくて来られる方。最初は何も話せなくて帰られる方もいらっしゃいますが、「また来てね」といわれて、リピートされることで、話をすることもできたりします。利用の仕方は様々です。



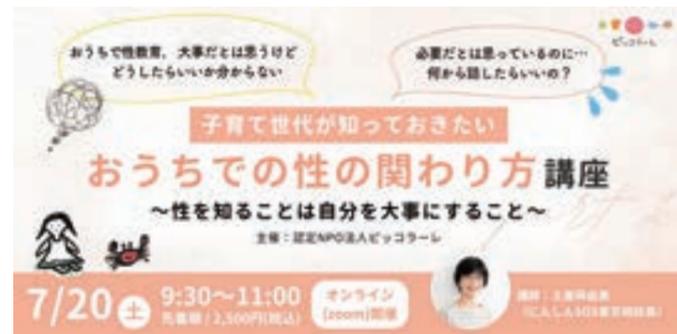
2025年度は第3火曜日14時～18時の月1回。豊島区内のレンタルスペースなどで実施していきます。今後、日曜日の開催も検討中。

※開催日時等は変更となる可能性がありますので、最新の情報はピッコラーレのX(@piccolare)にてご確認ください。



## 2024年度は、新たな取り組みとして、「包括的性教育に関する講座」を計5回開催しました！

「にんしんSOS東京」や「ぴさら」、出張「ピコの保健室」などの現場で、「性」にまつわる課題に向き合っているピッコラーレだからこそお伝えできる包括的性教育について、実際に現場で相談員として活動している講師からお話しました。



全5回で148名からのお申し込みがあり、参加者からは「実際の事例も話していただき、学びが深まった」「自分の子どもだけでなく周りにも伝えられるように引き続き学んでいきたい」「性教育」と構えずに、普段の生活のなかで、同意・境界などについて絵本も活用しながら子どもに伝えていきたいなどの感想もいただき、多くの方に包括的性教育について考えていただくきっかけとなりました。

**1** 子育て世代が知っておきたい  
おうちでの性の関わり方講座  
～性を知ることは自分を大事にすること～

日時：2024年7月20日(土) 9:30～11:00  
会場：オンライン  
申込：31名  
講師：土屋麻由美

**2** 子育て世代が知っておきたい  
おうちでの性の関わり方講座  
～性を知ることは自分を大事にすること 性暴力編

日時：2024年9月14日(土) 9:30～11:00  
会場：オンライン  
申込：26名  
講師：土屋麻由美

**3** 子どもの性に関するSOSってどんなこと？  
～キャッチするために大切なこととは～

日時：2024年11月28日(木) 20:00～21:30  
会場：オンライン  
申込：53名  
講師：大庭美代子

**4** 子どもの性に関するSOSってどんなこと？  
～キャッチするために大切なこととは～

日時：2025年3月2日(日) 10:00～11:30  
会場：としま区民センター  
申込：12名  
講師：大庭美代子

**5** 子育て世代が知っておきたい  
おうちでの性の関わり方講座  
～性を知ることは自分を大事にすること～

日時：2025年3月13日(木) 20:00～21:30  
会場：オンライン  
申込：26名  
講師：土屋麻由美

### 出張研修のご依頼を受け付けています

ピッコラーレは、行政/医療機関/民間支援団体/中高大学等教育機関などの職員向けに、「妊娠葛藤」「特定妊婦」「相談支援」「居場所支援」「包括的性教育」「性と生殖に関する健康と権利(SRHR)」などに関する研修を実施しています。支援員向けには、ケースワークを取り入れた実践重視の初期研修、フォローアップ研修、スーパーバイズ研修も対応しています。(オンラインも対応可)

詳細は、ホームページのお問い合わせフォームよりご相談ください。<https://piccolare.org/contact/>



こども家庭庁のホームページはこちら



## 代表の中島が「こども家庭庁プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～」の委員として活動しました！

プレコンセプションケアとは、将来の妊娠に備えて、若い世代が性や妊娠、健康について正しい知識を持ち、自分の身体を大切にすることをサポートする取り組みです。このプレコンセプションケアは、国が定めた「成育医療等基本方針(2023年3月閣議決定)」でも、「男女ともに正しい知識を持ち、健康管理を行うように促す」として、推進が進められてきました。

さらに、「経済財政運営と改革の基本方針2024(2024年6月閣議決定)」では、プレコンセプションケアの体制づくりを進めるため、今後5年間の計画をつくらることが盛り込まれました。これを受けて、2024年11月に「プレコンセプションケアの提供のあり方を考える検討会」が立ち上げられました。

代表の中島がこの検討会のメンバーとして参加し、2024年11月から2025年5月までの5回の会議に出席しました。その中で、「包括的性教育」と「リプロダクティブ・ヘルス・ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」という、とても大切な概念・言葉を、計画にしっかりと入れてもらうよう働きかけました。その結果、最終的にこの2つの言葉は、計画の本文にしっかりと盛り込まれることになりました。

この新しい計画、「プレコンセプションケア推進5年計画～性と健康に関する正しい知識の普及と相談支援の充実に向けて～」は、こども家庭庁のホームページで公開されています。ご興味のある方は、ぜひご覧ください。



### SRHRとは？

日本語では、「性と生殖に関する健康と権利」と訳され、下記の4つの言葉の組み合わせで作られています。

- セクシュアル・ヘルス**  
自分の「性」に関することについて、心身ともに満たされて幸せを感じられ、またその状態を社会的にも認められていること。
- セクシュアル・ライツ**  
「性」を、自分で決められる権利のこと。自分の愛する人、自分のプライバシー、自分の性的な健康、自分の性のあり方を自分で決められる権利。
- リプロダクティブ・ヘルス**  
妊娠したい人、妊娠したくない人、産む・産まないに後悔も関心もない人、アセクシュアルな人間問わず、心身ともに満たされ健康にいられること。
- リプロダクティブ・ライツ**  
産むか産まないか、いつ・何人子どもを持つかを自分で決められる権利。妊娠、出産、中絶について十分な情報を得られ、「生殖」に関するすべてを自分で決められる権利。

### 2024年度 委員・理事 (代表・中島かおり)

- 厚生労働省 予期せぬ妊娠等による支援が必要な妊産婦の効果的な支援プロセス等に関する調査研究業務一式に係る技術審査委員
- こども家庭庁 プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～委員
- こども家庭庁 社会的養育・家庭支援部会委員
- 世田谷区 産後ケア事業あり方検討会委員
- 豊島区 社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会 理事

研修教材協力(松下清美)  
厚生労働省 女性相談支援員向け研修の教材作成及び実施方法に関する調査研究事業



講演実績

■医療法人

医療法人きずな会 さめじまボンディングクリニック

■民間団体

一般財団法人日本女性財団

一般社団法人コンパスナビ

一般社団法人ソウレージ

江東社会的養護を考える会

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター

児童養護施設 子供の家

社会福祉法人 特別区社会福祉事業団

港区立母子生活支援施設 メゾン・ド・あじさい

浅草寺福祉会館

東京都ひとり親家庭支援センターはあと

特定非営利活動法人ピルコン

府中・生活者ネットワーク

FITチャリティ・ラン

■教育関係

一般財団法人日本婦人衛生会 第一保育園

杉並区中瀬中学校

杉並区立松溪中学校

世田谷区立砦中学校

学校法人草苑学園 草苑保育専門学校

津田塾大学学芸学部

東京家政大学人文学部

法政大学人間環境学部

立教大学コミュニティ福祉学部

■行政

茨城県福祉部子ども政策局少子化対策課

葛飾区青少年育成青戸地区委員会環境部

埼玉県保健医療部健康長寿課

世田谷区生活文化政策部 人権・男女共同参画課

公益財団法人せんだい男女共同参画財団

千葉県健康福祉部児童家庭課

墨田区子ども・子育て支援部子育て支援総合センター

■学会・シンポジウム

令和6年度孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム

総会関連イベント「孤独・孤立対策における若者支援」

令和6年度沖縄県若年妊産婦支援促進事業シンポジウム

第7回FLECフォーラム

日本子ども虐待防止学会第30回学術集会

メディア掲載

■新聞

毎日新聞(2024/09/29)

飲む中絶薬の使用緩和 女性の安心につなげたい

朝日新聞(2024/10/24)

妊娠は自己責任?

女性を追い込む社会のまなざしと、足りない性教育

読売新聞オンライン(2024/12/25)

困難抱える妊産婦に居場所、自治体が自立まで一貫サポート…

23か所、担い手確保で地域差

読売新聞(2025/02/15)

経口中絶薬 使用条件...無床診療所へ緩和 足踏み

共同通信社(2025/03/06)

思わぬ妊娠「悩み抱えないで」

■オウンドメディア

日テレNEWS NNN (2024/09/12)

「1人で決めるなんてこの世の中難しすぎる」

妊娠の相談で「死にたい」403件——男性からの相談も

FITチャリティ・ラン(2024/10/14)

2023『チャリティーインタビュー』

MBSニュース

思いがけぬ妊娠、相談先を探して漂流する女性に寄り添う

「にんしんSOS」 過酷な状況で絶望、孤立する女性と30回以上

やりとり重ねて心解きほぐす (2024/12/27)

■ラジオ

LuckyFM茨城放送(2025/03/21)

「ダイバーシティニュース」

■雑誌

生活と自治(2025年1月号)

連載67 ロードマップその先の明日へ

「誰もが孤立せずに、産み、育てられる社会」を目指して



# Project HOME 5th Anniversary

2024  
11/17  
Sun

5周年記念イベント

「誰も一人にしない～つながり続けるためにあなたとつくる『project HOME』～」を開催しました!



当日は約130名もの方々をご参加ください、運営スタッフを含めると総勢160名を超えるにぎやかな会となりました。

「ピコサポ」など寄付を通じてピコラーレを応援してくださっている方、ピコラーレの事業を支えてくださった助成団体の方、行政職員の方、性教育などを通じて地域活動をされている方、若年妊婦のための居場所「びさら」などの卒業生や普段は企業で働くプロボノの方、そしてピコラーレで活動するスタッフなど、参加者の顔ぶれも幅広く、本当に多くの方から居場所事業「project HOME」が支えられ、一緒に頑張ってきたのだと改めて実感し、これから作っていききたい未来に思いをめぐらせる時間となりました。

今回のイベントでは、会場全体でproject HOMEのこれまでのあゆみを振り返り、未来について一緒に対話しながら考えられるよう、代表中島とproject HOME協働団体であるNPO法人PIECES代表理事の齋典道さんとのトークセッションのほか、「びさら」に関する展示、出張型保健室「ピコの保健室」、若年女性のための出張相談会「びこカフェ」の体験ブースなどを設けて、一人ひとりの方法でproject HOMEの世界観を感じていただきました。

展示では、「びさら」の誕生秘話や「びさら」での生活の様子、そして何よりも私たちが大事にしていること、そして実際に利用した方の声、そして「びこさん」の様子などを、より詳しく、たくさんの写真を交えてポスターにまとめご紹介しました。



出張型保健室「ピコの保健室」の体験ブースは終始大賑わい!

実際に「ピコの保健室」に携わっているスタッフによる、わかりやすく一緒に考えながら知識を得るためのクイズや実物のコンドームやイラストを用いた説明などを通じて、ピコの保健室を体験していただきました。

「びこカフェ」の体験ブースでは、性やパートナーシップなどに関するオスズの書籍や、実際のびこカフェで展示や配付しているナプキンやタンポンなど、よく知られた生理用品のほか、月経カップや吸水ショーツなど、最近登場した生理用品も展示!スタッフからは実際の使用感やそれぞれの特長、海外での使用事情などの説明がありました。



本イベントのメインパートである、ピコラーレ代表理事の中島×NPO法人PIECES代表理事の齋典道さんとのトークセッションでは、project HOMEの5年間を振り返り、ピコラーレやproject HOMEが大切にしてきたことや、これから実現していきたい未来像を会場全体で分かち合いました。

たくさんの「はじめまして」や久々の再会であふれた会場は、終始にぎやか!それぞれの参加者が、自分の肩書きや役職からすこし離れて過ごす空間は、とても温かいものでした。

本イベント開催に際し、素敵な会場をご提供ください、運営にも多大なお力添えをいただきました富士通株式会社さま、当日の飲食のご支援・ボランティアスタッフとしてご参画くださったビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社さまに改めて御礼を申し上げます。



# Thank You

あたたかいご支援、ありがとうございます！



## 補助金・助成金でのご支援

- Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs[国内助成]
- シングルペアレンツ・エンパワメント・プログラム by American Express

## 企業・団体からのご寄付やご支援

- 団体賛助会員 ● テクマトリックス株式会社  
● リンクスオブハーツ合同会社



- ご寄付 ● 朝日ライフアセットマネジメント株式会社  
● 一般社団法人ドゥーラ協会  
● 株式会社ストラテジックキャピタル  
● 株式会社プレシディオ  
● Kharismira株式会社  
● 合同会社合同屋  
● 有限会社MOALIS  
● UBSグループ



※一定額以上のご支援をいただいた法人・団体さまを掲載しています。(敬称略・50音順)

## 個人の方からのご寄付やご支援

- |      |                  |        |                |
|------|------------------|--------|----------------|
| 賛助会員 | マンスリーサポーター「ピコサポ」 | 都度のご寄付 | 「ありがとうブック」への寄付 |
| 32名  | 355名             | 159名   | 13名            |

## 物品寄付(敬称略)

### 食品・衣類等日用品

- としま子ども若者応援プロジェクト
- 一般財団法人 日本民間公益活動連携機構(イケア・ジャパン株式会社)
- 一般社団法人若草プロジェクト(システムサービス株式会社、株式会社プロバックス、コンパースジャパン株式会社)
- 社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会
- 学校法人草苑学園 草苑保育専門学校
- 特定非営利活動法人サンカクシャ(株式会社ビームス)
- 公益財団法人 日本財団(株式会社コーセー)
- ビザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社

### ヘルスケア商品

ピコの保健室やびこカフェなどで活用させていただきました！

- アストログライドジャパン
- オカモト株式会社
- 相模ゴム工業株式会社
- ジェクス株式会社
- 株式会社たかくら新産業
- 株式会社TENGAヘルスケア
- 中西ゴム工業株式会社
- 不二ラテックス株式会社
- 持田ヘルスケア株式会社

## その他

- 一般社団法人つくろい東京ファンド(つながる電話・アンブレラ基金)
- 一般財団法人日本女性財団(経済的に困窮する女性への医療支援)

個人の皆さまから Amazonウィッシュリストや 乳児用衣類等物品寄付のご支援もいただきました！



## ピコサポキャンペーン

### 「包括的性教育」を広げよう

～生きていていい、そう思える社会をみんなで～



2025年2月21日～3月31日

### Event 1

3月2日(日)

子どもの性まつわるSOSって  
どんなこと  
～キャッチするために大切なことは～

### Event 2

3月13日(木)

子育て世代が知っておきたい  
おうちでの性の関わり方講座  
～性を知ることは自分を大事にすること～

### Event 3

3月27日(木)

代表中島がお伝えする  
「自分を大切にするための“包括的性教育”  
～相談窓口から見えてきたニーズ～」

事業全体で必要となる活動資金確保のために、2024年2月21日から3月31日まで、継続的なご寄付で 私たちの活動を支えてくださる「ピコサポ」に新たにご登録くださる方を募集するキャンペーン 「「包括的性教育」を広げよう ～生きていていい、そう思える社会をみんなで～」を開催しました！

新規ピコサポ75人を目指してキャンペーンを進めた結果、最終的に36人の方にピコサポに登録いただきました。 目標には届きませんでしたが、温かいご支援にメンバー一同感謝の気持ちでいっぱいです。 ピコサポキャンペーンを通して支援の輪を広げてくださった皆さん、本当にありがとうございました！

また、期間中には、「包括的性教育」に関するイベントを3回開催させていただきました。 延べ139名の方にご参加いただき、新規ピコサポの登録にもつながったイベントにもなりました。

「包括的性教育」を広げよう  
～生きていていい、そう思える社会をみんなで～

現在 **36** 人の方に  
ピコサポになっていただきました！

「生きていていい」  
誰もがそう思える社会を  
一緒に作っていきませんか？

新規ピコサポ  
目標  
**75** 人

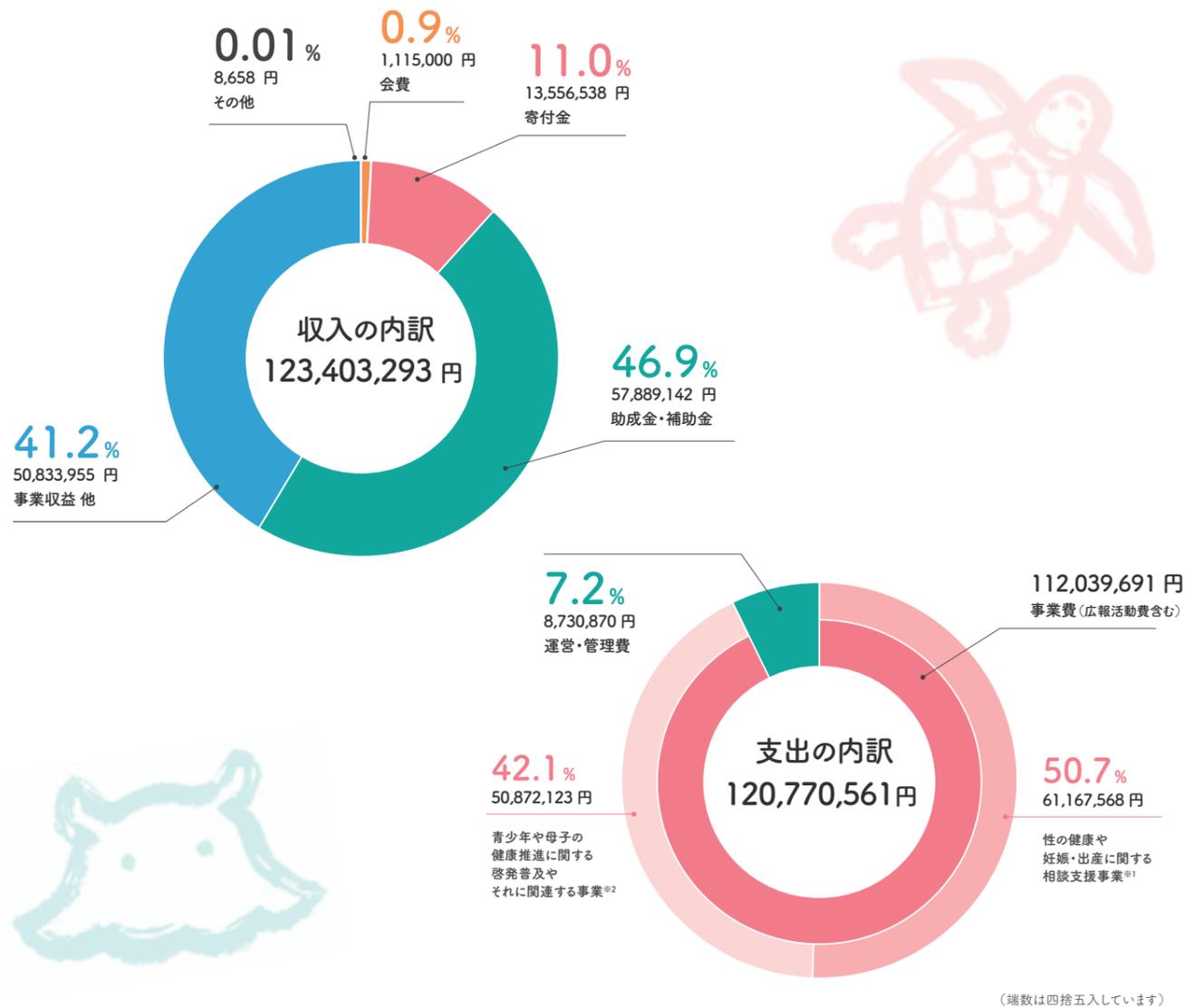
## 活動説明会(2022年5月～毎月開催!)

これまでの活動説明会では、ピコサポの活動全体についてお話していましたが、2025年1月からは「相談支援事業」と「居場所事業」に焦点を当ててそれぞれの事業をより深くお伝えする説明会も開催しました。時間もこれまでの60分よりも45分とコンパクトにして、ランチタイムの時間により参加しやすくなっています。2024年度は314名の方にご参加いただき、さらにその中で32名の方がピコサポの仲間になってくださいました！

活動説明会の詳細はホームページのお知らせに記載していますので、ぜひお気軽にご参加ください。

## インターン・プロボノでのご支援

2024年度は5名(学生1名・社会人4名)の方がインターン・プロボノとして広報ファンドレイジングチームや事務局のサポートに参画し、それぞれの経験やスキルを活かして活動を支援してくださいました！



| 科目           |                                 | 金額                 |
|--------------|---------------------------------|--------------------|
| 会費           | 正会員受取会費・賛助会員受取会費                | 1,115,000          |
| 受取寄付金        |                                 | 13,556,538         |
| 受取助成金等       | 受取助成金・受取補助金                     | 57,889,142         |
| 事業収益         | 性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業収益          | 42,733,505         |
|              | 青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業収益 | 8,100,450          |
| その他の収益       | 受取利息・雑収入                        | 8,658              |
| <b>経常収益計</b> |                                 | <b>123,403,293</b> |
| 事業費          | 人件費                             | 72,518,074         |
|              | その他諸経費                          | 39,521,617         |
|              | <b>事業費計</b>                     | <b>112,039,691</b> |
| 管理費          | 人件費                             | 3,537,945          |
|              | その他経費                           | 5,192,925          |
|              | <b>管理費計</b>                     | <b>8,730,870</b>   |
| <b>経常費用計</b> |                                 | <b>120,770,561</b> |
| 当期経常増減額      |                                 | 2,632,732          |
| 経常外収益        |                                 | 0                  |
| 経常外費用        |                                 | 0                  |
| 当期計上外増減額     |                                 | 0                  |
| 税引前当期正味財産増減額 |                                 | 2,632,732          |
| 法人税・住民税及び事業税 |                                 | 70,000             |
| 前期繰越正味財産額    |                                 | 22,355,564         |
| 次期繰越正味財産額    |                                 | 24,918,296         |

※1 性の健康や妊娠・出産に関する相談支援事業：相談支援、研修、啓発、調査研究・政策提言 ※2 青少年や母子の健康推進に関する啓発普及やそれに関連する事業：居場所事業

ピッコラーレは2024年度も引き続き、「妊娠葛藤相談窓口」「中絶後の相談窓口」「安心できる居場所のない妊産婦のための居場所」「ピッコの保健室」「びこカフェ」等の支援現場を運営しながら、「妊娠葛藤」を生み出す社会構造にも目を向け、制度レベルで変革を促すための政策提言活動や、支援者・一般市民を対象に、課題の理解を深めるためのイベント・講演・研修など啓発活動も積極的に行いました。財政面について、24年度は「東京都妊産婦等生活援助補助事業」の事業者に無事選定されたことで、助成金・補助金率が上昇しました。妊産婦の居場所/生活支援の安定運営に必要な補助金となるため、来年度以降も事業者として継続選定されるよう努めています。また、自主財源(皆さまからの寄付や研修等の自主事業)の強化も安定的な事業運営や新たなニーズに応える現場の活動を可能にするために、引き続き重要なテーマとなっています。研修事業の柱である支援者育成研修について、24年度は開催を1年間お休みし、運営体制等の立て直しの時間にあて、次年度の再出発に向けて準備を進めました。寄付については、クラウドファンディング以外の方法で単発の寄付の輪を広げることには挑戦をし、試行錯誤が続いています。継続支援者「ピコサポ」を増やすための活動については、「ピコサポキャンペーン」等の実施を行い仲間の輪を広げました。2025年度も引き続き、自主財源の柱を育てることをテーマに、収益モデルの再構築を図っていきます。

## ご支援のお願い

ピッコラーレは、2022年12月に認定NPO法人になりました。認定NPO法人ピッコラーレへのご寄付は、「寄付金控除」の対象になります。

ピッコラーレの活動は、皆さまのご支援に支えられています。「『にんしん』をきっかけに、だれもが孤立することなく、自由に幸せに生きることができる社会」の実現に向けて、広報やご寄付等での応援、どうぞよろしくお願いいたします。

### 寄付をする

妊娠で孤立しない社会をつくるために、サポーターとしてピッコラーレの活動に参加して下さる方を募集しています。

#### マンスリーサポーター制度『ピコサポ』

毎月の継続的なご支援です  
1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円、30,000円  
の6種類から選べます。



マンスリーサポーターの登録は、クレジットカード決済のみとなります。

#### 都度のご寄付

いつでもご寄付いただけます。

#### ご寄付の方法



##### クレジットカード

各種クレジットカードをご利用いただけます。



<https://piccolare.secure.force.com>  
※マンスリーサポーター、クレジットカード、賛助会員すべて共通です。

##### お振込

ゆうちょ銀行  
記号：00130 番号：515041

※他行よりお振込みの場合  
店名 ○一九(019)  
当座 0515041  
特定非営利活動法人ピッコラーレ

※お振込にてご寄付いただいた方は、お手数ですが、お名前、電話番号、郵便番号、住所のご記入をお願い致します。お礼のご連絡や活動の報告をさせていただきます。

##### 郵便振替

口座番号：00130-0-515041  
口座名義：トクヒ)ピッコラーレ

#### 賛助会員になる

わたしたちの活動にご賛同頂き、継続的に参加・協力・支援くださる賛助会員を募集しています。

##### 賛助会員年会費

個人 一口 5,000円  
団体 一口 50,000円



#### その他の支援方法

##### ♡つながる募金

ソフトバンクの寄付サービス。携帯電話利用料金やTポイントのお支払いと一緒に寄付いただけます。



##### ありがとうブック

ご不用になった本・DVD・CD・ゲームなどをお送り頂くことで、支援できる仕組みです。



##### お宝エイド

使わなくなったお家に眠っている“お宝”をお送りいただくことで、支援できる仕組みです。



#### 書籍を買う



妊娠葛藤白書  
—にんしんSOS東京の現場から2015-2019—

NPO法人ピッコラーレ